



朝十小だより

学校教育目標 意欲ある子・考える子・健やかな子
～ 豊かな学びで楽しさと笑顔あふれる朝霞十小 ～

朝霞市立朝霞第十小学校

令和5年 6月号
〒351-0023
朝霞市大字溝沼828-1
TEL 048-469-5443
在籍児童数 765名

「意欲」の連鎖

校長 岩崎 英雄

熱中症が心配される7月のような暑さが続いたかと思えば、2月3月のような冷たい雨が降るなど、移り気な空模様が続いておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。日頃より本校の教育活動に対し、御理解と御協力をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

先日の朝、いつものように子供たちを挨拶で迎えようと黒目川側の北門に向かったところ、何やら橙色の実がポトンと落ちて、足元に転がりました。驚いてしげしげと見てみると梅の実でした。ついこの間まで青葉が眩しい朝陽が続いていたのにと生き物が育つ速さを実感しました。

さて、6年生は5月11日12日の2日間、日光へ修学旅行に行ってきました。天候にも恵まれ（朝霞は大変だったようですが…）多くの学びを持ち帰ることができました。コロナの制限が無くなった最初の週ということもあり、昨年とは違い、多くの外国人観光客の姿がみられました。6年生は、この修学旅行を機にあらためて



6年生 修学旅行

「最高学年」としての行動や自覚を確認できたのではないのでしょうか。先日行った「新体力テスト」では、丁寧に1年生の計測のサポートをしていた姿が印象的でした。他の学年でも、2年生がお兄さんお姉さんとして、1年生のお世話をしながら滝の根公園の探検を成功させたりと、着実に成長の歩みを進めています。



音楽朝会での5年生の発表

何かに取り組んだ時に、その成果を実感し自信を持つことができると、また新たなことに挑戦しようという前向きな気持ちが強くなります。十小の学校教育目標「社会に『生かす』力の育成」の「意欲ある子」とは、まさにこのようなところで育まれていくのだと思います。辞書を引くと「意欲」という言葉は、「進んで何かをしようと思うこと。また、その心の働き。」と説明されています。自分の好きな楽しいことであれば、誰もが時間を忘れて

熱中することができます。何かに全力投球できれば、その分、心も体も鍛えられます。たとえ小さなことでも、その積み重ねがあつてこそ、子供は大人へと成長します。しかし、その意欲がさらに自分の外に向かって作用して誰かのためになれた時、子供たちは、より素晴らしい力を身に付けることができます。誰かに助けられた経験は、次は誰かのためになりたいという気持ちにつながるからです。「やりたいことをやる」だけではなく、「してもらって嬉しかったことを誰かにする」「してほしくないことは誰にもしない」というのも、十小の目指す「意欲」です。この意欲を高めるためには、「してもらって嬉しかった」経験を積み重ねることが重要です。十小の子供たちが様々なことに意欲的に挑戦することができるのも、保護者や地域の皆様が挑戦できる環境を用意してくださっているからです。将来、「誰かのために自分の力を生かしたい。」と意欲的に振る舞うことのできる大人となって、社会を支えていってくれればと心から願っています。子供たちが大人になった時に、自分たちがそうしてもらったように、次代の子供たちが意欲的になれるような素晴らしい環境を用意してくれたいと思います。



新体力テストで低学年のサポートをする5・6年生

